

聖霊降臨後第12主日礼拝

「サマリヤの女」

ヨハネ 4章 3～30、39～42

今年はコロナの影響でどこにも旅行に行けないのですが、昨年、旅行で北海道の旭川にある作家の三浦綾子記念館を訪れました。記念館の中では三浦綾子さんの小説の劇が上演されて大勢の人が見ておられました。また建物内では三浦さんご夫妻のたくさんの写真や短歌、本も見ることができました。隣接する建物では、三浦綾子さんの家の書斎が再現されており、執筆状況が目に見えようでした。それ以来毎月1冊三浦綾子さんの本を読むようにしています。今日の箇所は『サマリヤの女』と言うタイトルでよく知られているところですが、三浦綾子さんはイエス・キリストの生涯という本の中で「聖書の中で、私の最も親しみを覚える女性」と評しておられました。私は100回以上ここは読んでいましたが、余り印象に残っておらず、ただ読んだだけで終わっていました。あらためて、三浦さんがなぜそのように思われたのか、サマリヤの女とはいったいどんな人物だったのか、ゆっくり読んでみました。今日は私が読んで、感じたこと、教えられたこととお話ししてみたいと思います。牧師先生のように詳しくはお話しできませんが、次回皆さんがお読みになるときの参考にしていただければ幸いです。今日の聖書箇所4節は「サマリヤを通過しなければならなかった」とありますが、英語の聖書では He needed to go through Samaria. 「サマリヤを通過していく必要があった」とあります。イエス様は始めから明確な目的をもってこの地を訪れたことがわかります。サマリヤは北イスラエルの首都でした。ソロモン王の息子レハブアム王の時代、紀元前931年イスラエルは南王国ユダと北イスラエルに分裂しました。そしてその約200年後、北イスラエルはアッシリア帝国によって紀元前722年に滅ぼされました。アッシリアの王はサマリヤを占領した時、イスラエルの指導者たちをアッシリアの町々に移住させ、異民族をサマリヤに連れてきて住ませました。これは当時の占領政策では当たり前になっていたやり方で、占領した国が歯向かうことがないようにするためでした。連れてこられた異民族の人々は自分たちの宗教や神々もこの地に持ち込みました。そのためサマリヤでは主への礼拝と偶像礼拝の二重礼拝が行われるようになりました。ユダヤの人々はサマリヤ人の信仰を自分たちユダヤ教とは異質のものと思なしました。北イスラエルに残った貧しい人々と異民族の結婚も行われるようになり、いろんな血が混ざったサマリヤ人を純粋なユダヤ人たちは軽蔑し嫌いました。イエス様の時代のユダヤ人たちはガリラヤへ行く場合、中間地点にあるサマリヤを通らずに迂回するようにしていました。そのような状況の中でイエス様はユダヤ人の常識を打ち破ってサマリヤに入ってきたのです。6節～8節の聖句をご覧ください。

6節そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れで、井戸のかたわらに腰をおろしておられた。時は6時頃であった。7節ひとりのサマリヤの女が水を汲みに来た。イエスは、「わたしに水を飲ませてください。」と言われた。8節弟子たちは食物を買いに、町へ出かけていた。

夜明けを1時にするユダヤ式の時刻ならば6時は正午ごろです。この時刻にひとりの女が水をくみに来ました。当時水を汲むのは女性の仕事で、朝と夕方の2回水を汲みに来ました。日中に水を汲みに来るのはふつうではなかったようです。正午ごろ、他の女の人たちと交わることがないようにこの女性はやってきたのでした。イエス様はこの女性に対して「わたしに水を飲ませてください」というお願いをされました。ユダヤ人がサマリヤ人に、しかも見るからに問題がありそうな女の人に「水を飲ませてください」と助けを求められるということは、ありえないことでした。9節、10節の聖句をご覧ください。

9節そこで、そのサマリヤの女は言った。「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリヤの女の私に、飲み水を

お求めになるのですか。」ユダヤ人はサマリヤ人とつきあいをしなかったからである。10節イエスは答えて言われた。「もしあなたが神の賜物を知り、また、あなたに水を飲ませてくださいという者が誰であるかを知っていたなら、あなたの方でその人に求めたでしょう。そしてその人は生ける水を与えたことでしょう。」

当時、ユダヤ人の教師が女性と話すことも珍しいことなのですが、軽蔑するサマリヤの女性と話をすることなどは考えられないことでした。ですからこの女性の言うように、「どうしてサマリヤの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」と、この女性が言ったのは普通の反応でした。

10節の「神の賜物」はイエス様ご自身のことを指すと理解する説とイエス様が与えられる聖霊か啓示を指すとする説があります。いずれの場合にしてもイエス様は神の賜物である永遠の命のことを「生ける水」と語られました。旧約聖書(ユダヤ教)では知恵や律法を水に例えたりしているので、本来の水とは違うものを指すことは、推察することができたはずですが、この時点でこの女性は生ける水のことを全く理解していませんでした。それでもイエス様は会話をより深い霊的な意味へと高めようとしておられます。続いて11節12節の聖句をご覧ください。

11節彼女は言った。「先生。あなたは汲む物を持っておいでにならず、この井戸は深いのです。その生ける水をどこから手にお入れになるのですか。12節あなたは私たちの先祖ヤコブよりも偉いのでしょうか。ヤコブは私たちにこの井戸を与え、彼自身も彼の子供たちも家畜も、この井戸から飲んだのです。」

9節の「つきあいをしなかった」とは器などの1つの物品をとともに共有することはあり得ないことを含むので、11節のように「汲む物を持っておいでにならず」という言葉が彼女の口から出たのです。この女性は11節から、先生(師)という言い方をし始めましたが、まだ生ける水を誤解したまま、イエス様の返答に自然な感情で受け止められず、少しイラっとしていた、と考えられます。「この井戸は深いのです。その生ける水をどこから手にお入れになるのですか。あなたは先祖ヤコブよりも偉いのでしょうか。」と、なんとなく突っかかるような応答をしました。ここで先祖と訳しているところはFatherが使われています。イエス様は「ヤコブよりあなたは偉いのですか。」という質問にはお答えにならずに、福音をこの女性に伝えられました。13節~15節の聖句をご覧ください。

13節イエスは答えて言われた。「この水を飲むものはだれでも、また渴きます。14節しかし私が与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人の内に泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」15節女はイエスに言った。「先生、私が渴くことがなく、もうここまで汲みに来なくてもよいように、その水を私に下さい。」

彼女は水の意味を誤解して、イエス様の水を受けたら、もう毎日井戸に水を汲みに来る必要がないと思いました。彼女がイエス様の話に関心を持ったのは、それが彼女の生活を楽にすると考えたからでした。イエス様に「先生、私が渴くことがなく、もうここまで汲みに来なくてもよいように、その水を私に下さい。」という願いをしました。この世での一時的な楽をすることや幸せを願うのは、よくあることです。私も6月の給付金のようなお金が入ってくるとうれしく思いました。昔は宝くじをよく買って、イエス様、この宝くじが当たれば教会のために使いますからどうか当たりますように、と願い、たくさんの金を捨ててしまいました、当たるわけがないですよ。この女性の場合は水を汲みに来なければこれから楽ができるので、この願いをしました。イエス様は彼女のこの願いにはお答えにならず、彼女の個人生活に言及していきます。16節~18節の聖句をご覧ください。

16節イエスは彼女に言われた。「行って、あなたの夫をここに連れてきなさい。」17節女は答えて言った。「私には夫がありません。」イエスは言われた。「私には夫がないと言うのは、もっともです。18節あなたには夫が五人あったが、今あなたと一緒にいるのは、あなたの夫ではないからです。あなたが言ったことは本当です。」

サマリヤの女はいつも湧き出てくる水を求めたのですが、イエス様は彼女が一番触れてほしくないことに言及されました。彼女にとっては、まるで意味をはぐらかされたようにも感じられたのではないのでしょうか。イエス様は彼女の内に秘められたすべてを知っておられる方です。まず「夫を連れてきなさい」と命じました。これは、彼女の心の中で一番触れられたくないことでした。サマリヤの女の人が5人の男と離婚し、6人目の人と同棲している、と指摘し、彼女の心の問題を直視させました。彼女の心が満たされていないことを気づかせます。当時の結婚がどのような形態であったとしても、夫婦関係の破綻は心に傷を残します。これを5回も失敗していることは、自分に愛想が尽きる程度のことではないように思います。この女性の一番の問題点は「誰も私を必要としていない。誰も私を愛してくれるはずはない。」というような思いで、多くの心の傷を負っていることでした。彼女の心の中は罪悪感で満ちていたと思われれます。ひどく低いセルフイメージと強い不安感を持ち、深い孤独感を感じていたと思われれます。始めに少し述べましたが、三浦綾子さんがイエス・キリストの生涯という本の中で、このサマリヤの女性のことを、聖書の中で、私の最も親しみを覚える女性と書かれているのは、三浦さん自身が脊椎カリエスで、13年間の寝たきりの生活の中で何の役にもたない自分に投げやりになり、福音を聞いても、すぐには素直になれなかった自分の姿と重なるものを感じておられたのだと思います。このサマリヤの女性はイエス様から、指摘された自分の問題には触れずに、神学の別の質問をなげかけていきます。19節20節の聖句をごらんください。

19節女は言った。「先生。あなたは預言者だと思います。20節私たちの父祖たちはこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムだと言われます。」

心の問題に気づき始めたサマリヤの女は触れられたくない問題にイエス様を近づけないために、この質問をしたのでした。サマリヤではモーセが祝福の山と言ったゲリジム山で礼拝をしていました。この彼女の質問に対してイエス様は礼拝の本質について語られました。21節～24節の聖句をご覧ください。

21節イエスは彼女に言われた。「私の言うことを信じなさい。あなた方が父を礼拝するのは、この山でもなく、エルサレムでもない、そういう時が来ます。22節救いはユダヤ人から出るので、わたしたちは知って礼拝していますが、あなた方は知らないで礼拝しています。23節しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。24節神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」

「救いはユダヤ人から出る」とはユダヤ人のメシヤを通してのみ、全世界に救いがもたらされるということをおっしゃったものです。当時のメシヤとは「油そそがれたもの」という意味で、メシヤが愛と平和の世界的王国を樹立すると考えられていました。旧約聖書の預言者たちはメシヤの到来を預言しました。この女性もメシヤを期待していたかもしれませんが、自分がメシヤと話しているとは気づいていませんでした。21節でイエス様は「神を礼拝する」とは言わずに「あなた方が父を礼拝する」と言われました。父という言葉、ここで3回おっしゃっています。明らかに神の子としての立場を明らかにされて話されておられることが分かります。「神は霊です」とは神は一つの場所に制限される存在ではないことを言われたものです。どこにでも存在し、どこでもいつでも礼拝することができることをこの女性に教え、重要なのは、どこで礼拝するかではなくどのように礼拝するかであることを教えられました。「真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。」の所は英語の聖書で the worshipers will worship the Father in spirit and truth と書かれています。The worshipers 礼拝者たちが will worship the Father 父を礼拝するだろう in spirit 聖霊の働かれる中で truth 信仰でと訳せます。まことと訳されている truth は真実とか真理、信仰という意味があります。この箇所ではイエス様は、礼拝者たちは聖霊が働かれる中で、真理による信仰によって神を父と呼ぶ礼拝をする時が来るということをこの女性に教えられたのでした。

この時サマリヤの女の心に大きな変化が起こりました。彼女はメシヤの到来について語り始めます。

25 節 26 節の聖句をご覧ください。

25 節女はイエスに言った。「私はキリストと呼ばれるメシヤの来られることを知っています。その方が来られる時には、一切のことを私たちに知らせてくださるでしょう。」

26 節イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」

サマリヤの女性は霊の目が開かれ、イエス様がメシヤではないかと考え始めます。主イエスは「あなたと話しているこのわたしがそれです。」と明言されました。

イエス様はサマリヤの女性に会い、その地にご自身がメシヤであることを告げられました。

これは彼女にとって劇的な体験となりました。何と彼女は、水を汲みに来たのに、水瓶を置いたまま、直ちにこの事実を「来て、見てください。」と言ってサマリヤの町の人々に知らせたというのです。この物語を通し、私たちに教えておられる最も重要なことは、イエス様は「誰も愛してくれるはずがない」とか「自分は何の役にも立たない」というような思いを抱きながら、過去を引きずって闇の中に生きている人の所に来て暗闇から抜け出させ、永遠の命の希望「いける水」をお与えになる方だということです。

サマリヤの女性は、外面的に癒されたり、彼女の生活環境が変わったわけではありません。

でも彼女の内面はイエス様にお会いして、確かに変わりました。彼女には信仰が与えられたのです。彼女の生き方は 180 度変えられ、永遠の命への希望「生ける水」が、彼女の中に流れあふれ出たのです。ですから直ちにキリストと呼ばれるメシヤとお会いして話をした体験を他の人たちに知らせに町に行ったのです。

彼女の評判にもかかわらず、町の多くの人たちはこの女性の話を聞き、彼女の熱心な招きを受け入れ、わざわざそれを確かめるためにイエス様の所にやってきました。そして町の人たちもその目を見て、聞いて信じました。

この世の価値観とは違う神の愛を心から受け取った人は自分の置かれた状況や身体的なハンディにかかわらず、輝き始めます。瞬きの詩人として知られていた水野源蔵さんは「生ける水」を与えられ、見る世界が変わりました。脳性麻痺でしゃべることも何もできない寝たきりでしたが、数多くの感動的な詩を残されました。

キリストのみ愛に触れた『その時に』という詩をご紹介します。

「キリストのみ愛に触れたその時に
キリストのみ愛に触れたその時に
わたしの心は変わりました
憎しみも恨みも
霧のように消え去りました
キリストのみ愛に触れたその時に
キリストのみ愛に触れたその時に
わたしの心は変わりました
悲しみも不安も
雲のように消え去りました
キリストのみ愛に触れたその時に
キリストのみ愛に触れたその時に
わたしの心は変わりました
喜びと希望の
朝の光がさしてきました」

世の多くの人がイエス様と出会い、「生ける水」が流れ、あふれ出ました。私たちも以前はサマリヤの女性のよ

うに人目を避けていたかもしれません。そしてイエス様のことを知りませんでした。しかし、他の誰かによって、イエス様のことを伝えられ、イエス様のもとに招かれました。さらに、イエス様のことを聞いて信仰が与えられ、生き方が180度変えられ、「生ける水」が流れ、あふれ出しました。イエス様によってどのように変えられたかを恐れず他の人に証ししましょう。心の闇の中におり、イエス様のことを必要としておられる方が必ず周りにいらっしゃいます。暗闇から抜け出て、直ちにイエス様を伝えたこの女性のように私達もイエス様によって変えられたことを伝えていきましょう。最後にもう一度ヨハネ4章14節をご一緒に読んで終わりたいと思います。

14節しかし私が与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人の内に泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

お祈りさせていただきます。

「神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」

愛する天のお父様、あなたの御言葉を感謝いたします。自分は愛される資格などないと思っている方も残らず、「私の目にはあなたは高価で尊い」と心から言ってくださる愛の神様を礼拝できることを感謝いたします。神は愛です。愛のうちにいる人は神のうちにおり、神もその人の内におられます。イエス様によって変えられたお一人お一人が、今も暗闇の中にいる方々に主の愛をお届けすることができますように。信仰の創始者であり、完成者であられる尊い主イエス・キリストの御名を通してお祈り致します。アーメン。